**研究課題**：新生児腸回転異常症手術における虫垂切除の影響に関する
後方視的観察研究

1. **研究の目的**

腸回転異常を伴う中腸軸捻転は外科的緊急疾患であり、Ladd手術と呼ばれる術式が標準治療とされています。腸回転異常では虫垂の位置が通常と異なることから虫垂炎発症時に診断がしばしば困難となることから、Ladd手術時に同時に虫垂切除を行うことがあります。しかし虫垂切除が実際にもたらす影響についての報告は少ないです。今回当院で腸回転異常を伴う中腸軸捻転に対してLadd手術をすでに行った症例のカルテから手術成績などのデータを調査し、虫垂切除の影響について検討することにしました。

1. **研究の方法**

2000年1月から2020年12月までに腸回転異常を伴う中腸軸捻転に対してLadd 手術を施行した患者様が対象となります。

診療録から以下の項目に関するデータを集積して後方視的に調査し、虫垂切除群と非切除群で比較検討します。

性別、出生体重、出生週数、手術時日齢、手術時体重、併存症の有無、術後在院日数、術後フォロー期間、手術時間、出血量、術中所見、術後再捻転発症の有無、術後腸閉塞発症の有無

1. **研究期間**

202１年１１月の倫理委員会で承認されてから2か月間でカルテを調べたあと、解析を行い、結果をまとめます。2022年1月に研究終了とします。

1. **研究に用いる資料・情報の種類**

２「研究の方法」に記載の通り

1. **外部への資料・情報の提供、研究成果の公表**

外部への資料・情報の提供はありません。

研究成果は学会および学術雑誌に発表予定です。また、埼玉県立小児医療センターホームページにおいて情報公開を行います。

1. **研究組織**

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構　埼玉県立小児医療センター

研究責任者：所属 外科 科長兼副部長　　川嶋寛

研究分担者：所属 外科 　　　 医員 柳田佳嗣

1. **お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先**

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2022年1月31日まで下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表048-601-2200）